平成28年度

株式会社伊藤農園

会社紹介

みかんの里で柑橘類の栽培、生産、加工、販売を行い、有田を代表する６次産業会社として地域の雇用にも貢献

400年以上の歴史を持つみかんの本場、和歌山県有田市に青果卸売問屋として明治30年に創業。現在は有機肥料を使ったみかん栽培に力を入れ、土づくりからこだわった自家農園を拡張しつつ、柑橘類の生産から、搾汁（さくじゅう）、加工、販売まで手掛けている。オリジナル製品は無添加ジュース、ジュレ、ジャムなど多岐にわたり、「100%ピュアジュース」はモンドセレクション11年連続受賞を誇る。平成22年に農山漁村6次産業化対策事業で新工場を設置。地域の雇用を創出した業績が認められ、28年のアグリフードEXPO大阪2016で「輝く経営大賞」を受賞。同年に直営ショップ「みかんの木」をオープンした。

専務取締役 伊藤　彰浩

補助事業

主要商品の販売と品質を高めるために機械化に

「ピュアフルーツ寒天ジュレ」は同社の加工品の中でも販売数が年々増加していて、平成24年と28年を比較すると226%もの伸長を示す。しかし、容器のキャップ巻締めを手作業で行っているため、生産能力の低さ、品質の不安定性、短い賞味期限などが問題視されていた。解決策として、キャップ作業を機械化することで、生産能力や品質の問題を解消でき、窒素置換と真空処理が高度になって賞味期限を延ばせることが分かり、同補助事業で「連続真空巻締めキャッパー機」（池田機械工業／MJC-1300V一式）の導入を決めた。同時に、搾汁機の不足と、キャップ作業の機械化で得られた余剰人員の雇用を維持するために、「ステンレス製搾汁機」（森本鉄工所）も併せて導入した。

成　果

賞味期限の問題を解消したことから国外と国内の両方に市場が広がった

同事業に取り組んだ結果、賞味期限の問題を解消したことから、その成果が寄与できる市場が「日本国外」と「国内」の両方にあることが分かった。「日本国外」は、賞味期限を4カ月から6カ月以上に長期化したことで、海外の既存取引先へ新規提案し、売り上げ増を期待。また同事業で導入した搾汁機により、原料果汁の必要量増加にも対応可能で、5年後には年間1300万円の売り上げ増を見込む。「国内」は、日本の食品小売業界では出荷期限が通例として賞味期限の4分の3以上あるものと定められているため、今までは取り扱いを見送られてしまったが、こちらも対応できるようになった。また、時間当たりの生産量が380個から1300個に大幅に上昇し、3.42倍の生産能力を持つため、中元期・歳暮期の需要増加も実現。5年後には生産量を倍増させ、ジュレの商品別売り上げで年間1億2825万円を見込んでいる。

今後の展開

廃棄される皮を利用して新たな商品開発にも挑戦

同事業により、成長が予測されるジュレ製品市場での競争力の強化と利益率向上のめどが立った。その効果の一つとして、キャッパー機の導入を生かし、令和元年の中元ギフトで新商品をリリースして、好成績を挙げている。また、廃棄される柑橘の皮の活用に関する研究も進めていて、化粧品など新たな商品開発に取り組んでいきたい、と意気込みを見せる。

会社概要

会社名	株式会社伊藤農園
代表者	代表取締役　伊藤　修
所在地	和歌山県有田市宮原町滝川原498-2
資本金	700万円
従業員数	55名
業種	柑橘の農園業、加工・製造販売業
設立年月日	平成21年
TEL	0737-88-7053
FAX	0737-88-5507
E-MAIL	info@ito-noen.com
URL	https://ito-noen.co.jp/